



駒つなぎのイチヨウ

茨城県指定文化財 天然記念物

【茨城県日立市大久保町・鹿島神社】

樹種：イチヨウ

樹高：約20m

幹周：5.5m

樹齢：約550年以上

鹿島神社は祭神が武甕槌命で、社伝によれば、大宝元年（701年）4月7日に創建されたという。このイチヨウは神木とされ、鹿島神社の拝殿の前に存在している。

坂上田村麻呂が奥州の蝦夷征伐の折（801年頃）、鹿島神社に戦勝を祈願し、その際神木とされるこのイチヨウの木に駒をつないだこととつたえられることから「駒つなぎのイチヨウ」といわれている。

イチヨウは雌雄別株になっているが、このイチヨウは雄株で実は付けない。1本の幹のように見えるが、主幹とあとから出た支幹が新旧入り混じった複雑な樹姿を形成している。

（茨城県支部）

※引用「茨城県の名木・巨樹」発行：茨城県緑化推進委員会（平成8年）



謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 和田 新也

令和二年の年頭にあたり

新年明けましておめでとうございます。令和の御代になり初めて迎えるお正月を、皆様方におかれましては、穏やかに過ごされることと、お慶び申し上げます。この一年が、皆様にとって、素晴らしい年になりますよう、また造園建設業界にとって、明るい年になりますよう、心から祈念しております。

さて、私共を取り巻く社会・経済状況は極めて速い速度で動き始めております。本年開催される東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪・関西万博そして2027年には我々造園界が主役となる、横浜花博の開催が予定されております。これらビッグイベント開催の一方で、多くの制度改革が矢継ぎ早に行われております。建設業界にとって大きな節目となつた「担い手3法」に続き「新・担い手3法」が成立し、更なる経営環境、労働環境の改善に向けての道筋が示されたところです。

このように直面する課題は山積しておりますが、造園界に身を置く者として入職を希望する若者達が、よりやりがいと誇りを持つ魅力ある造園界創出に向け、一つひとつ皆様とともに取り組んで行く一年としたいと考えております。

また、近年激甚化する自然災害の復旧作業への対応では、多くの会員企業が活躍し地域における造園業の存在価値を高めているところですが、災害時における復旧・復興支援活動の更なる展開、都市公園や道路緑地などの整備・管理技術の向上、そして海外日本庭園の保全・再生など新たな政策動向への対応。グリーンインフラが注目される中、その重要性が再認識されている、観光・地域創生に関連する取り組み、更にはSDGsにおける造園の役割等、戦略的展開も図らねばなりません。



2020年新春座談会 地域リーダーズ これまでの10年、これからの10年 内側の勉強会 + 今後は外側への発信を

「地域リーダーズ」は、「造園建設業界の活性化や輝かしい未来を目指した地域での継続的な活動をするためには中心となるリーダー的存在が必要」と、平成22年に創設され、事業委員会・人材育成部会の下部組織として、各総支部1名、総支部長・総支部事業委員の推薦を受け事業委員長が委嘱しています。活動は、これまでの会議で合意した「ルールブック」に基づき、講演会、見学会、交流会などを行う「勉強会」をはじめ、(公社)日本造園学会、日造協「女性活躍推進部会」、造園・環境緑化産業振興会との連携に取り組み、日造協の会員拡大においてもその推進役を担っています。

座談会では、「地域リーダーズ これまでの10年、これからの10年」をテーマに、活動の現状や課題、今後の展望を語っていただきました。その概要を紹介します。

座談会出席者

- 松戸 克浩氏 総リーダー / 関東・甲信総支部 (株新松戸造園)
 古積 昇氏 サブリーダー / 東北総支部 (古積造園土木株)
 岩間紀久裕氏 幹事 / 中部総支部 (岩間造園株)
 野上 一志氏 北陸総支部 (株野上緑化)
 田川 弘氏 四国総支部 (南海造園土木株)
 小立 亮氏 中国総支部 (株小立造園)
- (司会) 清水 謙治 (一社) 日本造園建設業協会 事業課長
- オブザーバー: 和田 新也 (一社) 日本造園建設業協会 会長
 藤吉 信之 (一社) 日本造園建設業協会 専務理事
 成家 岳 (一社) 日本造園建設業協会 総務委員会広報活動部会長

清水 地域リーダーズの創設から10年。認知度とともに活動への期待も高まっています。そのため今回の座談会のテーマに選ばれたと思っていますが、自己紹介を兼ねて、地域リーダーズに関わるきっかけからお伺いします。

小立 地域リーダーズ以前に、弊社は一度、日造協を退会しており、日造協活動とは縁がありませんでした。妻の実家の造園業を継ぐことになり、島根県支部長の持田さんから、「日造協会員は減ったけど、やる気のある奴しか残ってないから、また戻ってこいよ」と誘っていただき、再入会と同時に「副支部長」を引き受け、現在に至っております。中国総支部は各県支部長が50代、副支部長以下30～40代と若く、歴代地域リーダーを多々良さん、岡本さんが務め、「いずれ回って来そう」と思っていたところ、引き上げていただきました。

平成28年から宮城県支部長と地域リーダーズを引き継がせていただきました。

松戸 昨年度、京都での勉強会では200名を超え、今年度、札幌でも150名を超える大勢の若手が参加しました。歴代総リーダーが敷いたレールがあったからこそ動きやすく、地域リーダーズの輪をさらに広げることができました。

私は8年前に当時の望月千葉県支部長から「君を千葉県の地域リーダーに任命する」と言われたのがきっかけです。埼玉の森川さんによく聞いて、同世代で頑張れとのことでした。当時は総リーダーになるとは考えもしませんでした。

森川さんは、「ルールブック」に基づいて、勉強会を中心に活動する出来たての組織だから、「一緒に頑張ろう」と言われ、その4年後。関東・甲信総支部のリーダーを松戸にと、平成25年度・北九州の勉強会で代表発表をしました。

横の繋がりが少ない造園業界で、地域リーダーズを通じて県内外に繋がりができ、さらに勉強会で交流が増え、日々の活動のエネルギーになっています。

岩間 前地域リーダーの中嶋さんから、お声がけいただきました。

造園業者が一堂に集まる機会は少なく、以前は日造協の総会だけでしたが、地域リーダーズに参加し、他の地域の方々とも知り合えました。全国に知り合いができると、情報交換ができ、地域の特色が分かり、それによって自分の地域、自分の状況を知ることもできます。

古積 前地域リーダーズの武田さんから誘われたのがきっかけで、東北の各県から6名のリーダーが集まり、地域リーダーズの活動についてのレクチャーを受け、懇親会では各県の情報交換を行ってきました。その後、地域リーダーズの改選について東北総支部に打診があり、

こうして活動する中で、業界のあり方や「造園」の重要性を発信していかなければならないと思うようになり、今は「造園」を後世に残すため、内外でさまざまな連携に取り組んでいます。

田川 徳島県支部長から、「地域リーダーになって欲しい。参加してみれば分かるから」と、平成26年度・沖縄の勉強会に初参加しました。参加するといろいろと見聞でき、勉強になると思いました。

その2年後、四国総支部長から「総支部のリーダーに決まった」と電話があり驚きましたが、以来2期4年になります。

こうした経緯なので、手探りでやってきましたが、他では聞けない造園にかかわる法改正の話や、人脈の広がりや魅力的で、商圏が異なるからか率直なお話を聞くことができ、規模や業容の異なる多様な会員がおりますが、共通の話題や同じような状況だからこそその話題もあり、

アドバイスもいただけたります。

これらは他では得られず、多くの方が参加するほど、効果も高まるので、この輪を広げていきたいと思っています。

野上 地域リーダーズの勉強会に誘われながら、日造協の総会も不参加で、日造協は敷居が高いと思っていたので、沖縄の勉強会が初参加になりました。

沖縄では普天間基地での体験に感動し、この会は今後も期待できる、何か楽しいことがあるのではないかと、参加させていただくようになりました。その後の富山県が当番県となり、自然な流れで総支部のリーダーを拝命しました。

清水 皆さん、勉強会に参加する中で活動の意義を見出されたように思います。

創設当初は「どんな活動をしたらいのか」から始まり、現場にすぐ活かせる技術的な内容を学びたいと「造園技術フォーラム」などへの参加を経て、自分たちのやりたいことが明確になり、指定管理者制度や経営マネジメント、日造協の歴史などを学ぶことなど、現在は、技術だけでなく内容に変化しています。

勉強会で学んだことを各地域に展開することも地域リーダーズの役割ですが、その他、どんな活動をしていますか。

各地域での取り組み 地域の温度差も課題に

松戸 日造協は10総支部で、地域リーダーズも10名で活動していますが、今回の座談会が大人数ではできないと聞き、来期も継続するリーダー6名に限定しました。全総支部の紹介できないことが残念です。



松戸 克浩氏

関東・甲信総支部は、ロープ高所作業特別教育の講習会を企画しました。1都8県と大人数になることから、近い地域で3グループに分け、講師をお迎えしたり、実技の講師を地域リーダーが務めたりと計3回開催しました。特別教育の必要性から実施しましたが、これが日造協全体の特別教育につながりました。

今年度は、2つの勉強会を行いました。1つは群馬県支部の協力で山梅さんを会場に実施し、日造協の「女性活躍推進部会」(以下、女性部会)の「出前講座」を皆で聞こうと、女性4名を含む28名が参加しました。①中国での日本式温泉づくりの構想の段階からの取り組み、②街路樹植替えにおけるイチヨウの新品種“センセーション”導入推進、③造園業のAI:人手不足の補完や業務効率化のためのロボット芝刈り機や温水による除草機械などをご紹介いただきました。

懇親会費などの一部を補助することで、説明会に参加しやすい環境も整えてきました。その結果、中国総支部内で10社程度の会員拡大に繋がり、活動も賑やかになりました。

2つ目は、山梨県支部の協力で小淵沢の会場に女性3名を含む24名が参加し、①山梨県支部の「山梨未来プロジェクト」②農業法人としての取り組みとその可能性などをご紹介いただき、いずれも貴重なお話を聞きすることができました。

小立 中国総支部の活動は体育会系です(笑)。総支部長の正本さんというリアルリーダーのもと、行政機関との意見交換や各種講習会、勉強会、本部委員会の参加など慌ただしく活動しています。当時、持田さんが会員拡大プロジェクトを担当されていた経緯もあり、総支部を挙げての会員拡大に頑張ってきました。

ただ、最近では会員を単に増やせば良いというものではなく、業界活動について価値観の共有なども大切だと考えています。お付き合いでご入会いただいても、その後続かなかつたりするのは、入会した会社も日造協にとっても残念なことです。今年は全国都市緑化フェアの開催地が広島ですから、これに合わせたリーダーズ活動も考えていきたいです。

野上 北陸総支部は帰宅部かもしれません(笑)。北陸総支部の勉強会への出席率は低く、石川の勉強会を転換点にと期待しましたが、劇的には変わりませんでした。十分に良さを伝えきれていない自身の反省もあり、改善したいと思います。

具体的には、日造協活動についての説明会を行い、各県支部でも個別に会社訪問するなど入会促進に向けてのフォロー活動を続けてきました。総支部内でも地域リーダーズの活動費を予算計上していただくなど、会員外の皆さんの交通費や

最初から関東・甲信総支部のような取り組みはハードルが高いので、全国の勉強会と一緒に参加していただくこと、北陸1県1リーダーも不完全なので、体制づくりからだと思っています。

清水 最近は全国の勉強会を総支部持ち回りにし、その地域でまだ参加していない方に多く参加していただき、地域リーダーズや日造協を知ってもらおうとしています。地域の温度差がなかなか解消できないというジレンマもあります。

田川 帰宅部の四国総支部です(笑)。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 沖縄県 | 鹿嶋市 | 宮崎県 | 大分県 | 熊本県 | 長崎県 | 佐賀県 | 福岡県 | 愛媛県 | 高知県 | 香川県 | 徳島県 | 山口県 | 島根県 | 鳥取県 | 広島県 | 岡山県 | 和歌山県 | 奈良県 | 兵庫県 | 京都府 | 滋賀県 | 福井県 | 三重県 | 愛知県 | 静岡県 | 岐阜県 | 石川県 | 富山県 | 新潟県 | 長野県 | 山梨県 | 神奈川県 | 東京都 | 千葉県 | 埼玉県 | 群馬県 | 栃木県 | 茨城県 | 福島県 | 山形県 | 秋田県 | 宮城県 | 岩手県 | 青森県 | 北海道 |
| 森根 | 井上 | 下湯 | 栗木 | 佐藤 | 田久 | 藤保 | 高須 | 植田 | 藤田 | 関 | 多々良 | 持田 | 西谷 | 福島 | 小林 | 的場 | 中山 | 橋本 | 坂上 | 茨木 | 上田 | 宇坪 | 水谷 | 中嶋 | 内山 | 小栗 | 北郷 | 久部 | 磯部 | 山崎 | 依田 | 田口 | 鈴木 | 伊藤 | 森川 | 山田 | 増田 | 水庭 | 諸井 | 今野 | 鈴木 | 古積 | 米内 | 三浦 | 四宮 |
| 清昭 | 恒弘 | 一康 | 保夫 | 豪裕 | 和男 | 良司 | 藤盛 | 高誠 | 植誠 | 秀樹 | 正義 | 多良 | 正樹 | 勝之 | 慶一 | 和盛 | 盛州 | 祥之 | 信涉 | 和幸 | 和誠 | 啓造 | 春海 | 中敏 | 内晴 | 小達 | 北総 | 久治 | 磯久 | 山信 | 依正 | 田典 | 鈴木 | 高義 | 昌紀 | 忠博 | 博一 | 道博 | 今道 | 鈴木 | 古和 | 米吉 | 三利 | 四史 | |

支部長

四国は人口が目に見えて減り、工事の発注も少なく、会員拡大も難しい現状にあります。また、ベクトルが違う方を誘っても、うまくいかないことも分かりますので、無理なお誘いはしていません。

生き残りをかけ、今後どうしたらいいか、新たな事業の創出が必要と、四国ならではのお遍路さんに関係したことを検討したところ、88ヶ所霊場は世界遺産登録目標を始め、すでにさまざまな動きがあるものの、各霊場をつなぐ道はあまり注目されていないことが分かり、これを対象にしました。

現在もNPOなどが頑張っていますが、人やお金が集まらず、手が回らないのが現状です。そこで今年から5年計画で道の改善に着手し、四国の文化をできるだけ良い状態で伝えようとしています。

こうした取り組みが日造協への理解や入会にもつながったりするのではないかと、まだ成果は報告できませんが、ちょっとずつ動き出したところです。

岩間 会員の少ない中部総支部は、活動への参加も多いとは言えませんが、昨年は北海道総支部から30名が来られ、地域の皆様にご案内しました。中部への視察は結構あり、いつでもウエルカムなので、こうした交流を行っています。

松戸 横のつながりができてきたので、総支部・支部間の交流は増えています。

古積 地域リーダーになった年が東北総支部での勉強会の年となり、例年2月の開催でしたが、紅葉をみていただきたいと11月に変更してもらい、岩手・宮城の県をまたいだ勉強会に全国から130名を越える方が来られました。

初日は、被災地の復興事業、東北地方の植生についての基調講演と交流会を行い、2日目に世界遺産に指定された平泉の中尊寺や毛越寺庭園、大型バスで仙台に移動しケヤキ並木で有名な定禅寺大通りの街路樹を視察、大径木の管理手法について説明させていただきました。

東北の地域リーダーは6名で、現在は持ち回りで各県をまわり一泊での交流を行っています。勉強会では、地元を代表するような庭園をはじめ、公園や街路樹を視察し、夜は地元の美味しいお酒を飲みながら意見交換を行います。地域での抱えている問題や課題、このような営業をしているなど、とても参考になる話しを聞くことができます。地元ではなかなか腹を割って話しができない部分もあるので、その辺りがリーダーズの良いところかも知れません。



古積 昇 氏

また、7月の群馬の勉強会にオブザーバーとして参加しました。勉強会では、管理が容易な新樹種の紹介や薬剤を使用しない温水による除草作業、無人での自動芝刈機などの実演がありました。

情報としては知っていても、導入に至ってないものはたくさんあり、造園従事者の高齢化、入職者の減少を考えればこのような機会を作って、良いものはどんどん取り入れるべきだと思います。

清水 地域リーダーズが活動する上で、総支部・支部の役員の方々に理解していただくことも必要だと思いますが、その点での工夫や課題など何かありますか。

松戸 地域リーダーズの認知度は高まってきましたが、私が総リーダーになった2年前でも、メンバー以外の方は、「地域リーダーズってなに？」と聞く方がほとんどで、その原因の一つは、各総支部や支部に「ルールブック」の存在が伝わってなかったことでした。

ですから、改めて総支部と支部に「ルールブック」をお送りし、「知らない、分からない」ということがないよう、その徹底に最初の2年間を充てました。

まだ総支部・支部の温度差はありますが、役員の方々の理解を得やすい環境ができ、少なくとも「地域リーダーズって何？」と、確認する方は減ったはずでした。

現在継続中のその後の2年は、女性部会や日本造園学会、造園・環境緑化産業振興会との連携に取り組んでいます。

群馬の話をしたのですが、地域リーダーズが活動するときは、女性部会にもお声がけし、各総支部や支部に女性部会の活動を紹介したり、「出前講座」を呼んでみてはとお勧めしています。

出掛ける時には、女性部会が担い手となる方々への理解を深めるために作成し

た『造園建設業の仕事入門』と『女子力アップで二人三脚ワーキング』を持っていき紹介しています。女性部会は酒井部会長のもととパワフルで行動が早いです。

地域リーダーズは、まだワンデーレスポンスには到底及ばず、もっともっと早く歯車が回るようにしたいと思います。

しかし、10総支部・47都道府県支部それぞれの事情もあり、前総リーダーの當内さんが提言していた組織体制の強化は今も課題なので、重要度を高めてしっかりやらなければなりません。

学会については、昨年、筑波大学で開催された全国大会に合わせた地域リーダーズの勉強会を行い、先生や学生とも交流を図りました。全国大会は毎年、造園関連大学で開かれるので、今後も積極的に参加していきたいと思っています。

昨年、勉強会の翌日、学会の北海道支部講演で学生の方に「造園という素晴らしい仕事があるのに、就職先の造園会社が見当たらない。もっと造園業のPRをしていただけませんか」と言われました。

就職活動で造園業者の情報は数えるほどしかなく、リクナビやマイナビに登録されていないと、ちゃんとした会社ではないように思えるということでした。

私たちは、人手不足と言っていますが、これをきっかけに現在の学生さん向けのPRをしていなかったと反省し、電車の車内広告を自社で出しました。キャッチフレーズは「人と自然の未来を創る」と「造園」を意識し、業界の認知、イメージアップに繋げることを意識しました。

造園は、日々の仕事も素晴らしいですが、昨年の豪雨災害など、災害時にも緊急対応などに取り組み、地域貢献もしています。こうしたことをPRしていくことも私たちの役目であり、急務です。



小立 亮 氏

とだったら話しやすいというのは、皆さんがおっしゃる通りですので、積極的に交流して欲しいですね。

人手不足の問題も、今まで通りのことしかせず嘆くのでは状況は変わりません。日造協が主催する「全国造園デザインコンクール」の参加賞や入賞を、地元の学校に支部会員が直接お届けするようになってから、学校との繋がりが出来ました。この機会を通じて、造園業界へ1人でも多くの学生が就職してくれるような活動に繋がれたらと考えています。

清水 全国造園デザインコンクールは、これまで表彰式に出られる特別賞受賞者以外の賞状は学校に郵送しているだけで、平成28年から支部の役員の方に手渡ししていただく方式に変え、昨年は9支部が実施しています。

小立 私たちの支部でも学校に直接お届けに参りましたが、この頃は自由登校の時期で、受賞した生徒さんに直接会えず、担当の先生に渡すだけになりました。開催時期の変更とか、少し工夫することでデザインコンクールをもっと活用していきたいのではないかと思います。

また、造園学科がある地元の高校では、学生の半数が進学、半数は他の業界へ行くなど、造園業界への就職はほとんど無いようです。学生たちは造園を学んでいるわけですが、その業界に進まない背景には、親御さんが「一年中外仕事で、仕事がキツイ業界」との認識で反対されることもあるそうです。さまざまな課題があると思いますが、業界を挙げて取り組むべき事案ではないかと思っています。

松戸 そこにいち早く対応したのが女性部会で、造園学科があるのに造園に就職する人が少ないのはもったいないと「出前講座」にて造園への理解を広げています。しかし、女性部会にも限界があり、私たちも連携しなければなりません。

古積 勉強会という形の盛り上がりは継続し、外側への働き掛けも必要です。

今後の担い手、学校へのアピールなど、私もまだできていませんが、皆さんの言う通り、何かしなければ変わりません。そういう取り組みが広がり、業界で協力し合う必要性が理解され、結果的に入会促進になればいいと思います。県で充分、日造協は敷居が高いと感じている方は多いですが、人手不足は共通の課題です。

群馬での勉強会に参加した際、気がついたことがありました。何か違うなと思ったら、それは上下ともに統一された作業着(制服)でした。男性も女性も一

会員数の拡大、人手不足対策について

清水 お話の中でいくつか展望も出てきました。地域リーダーズのさらなる展開、展望があればお伺いしたいと思います。

松戸 最初に話した「造園」という素晴らしいものづくり文化を後世に残すことが展望です。こうしたと思ったことは、すぐに対応してきたと思っていますが、諸事情で思うようにならないこともあります。また、考えるだけでなく、常に行動し、改善してきたのが地域リーダーズで、これからもそうだと思います。

私は、会員拡大プロジェクト推進部会にも参加していますが、こうした地域リーダーズの取り組みが成果として現れ、平成27年度から地域リーダーズの活動に予算が付くようになりました。

行動するから課題が見つけれ、改善できます。実践を重ねているのが地域リーダーズで、実践での学びをノウハウとして共有できるようになっています。

裾野を広げることは協会活動の根底として大事です。会員が少なれば業界のPRにも繋がりません。こうしたことから、日造協を知ってもらう場や入会した後で人脈や知識を広める場となる地域リーダーズの勉強会は、今後も大切にしていかなければなりませんし、学生の

方々、さらには、その親御さんの世代や先生にも、造園の必要性を知っていただかないと、「周囲の反対があつて造園を諦めた」となってしまう。

造園の仕事は多岐にわたり、学界、設計、行政、技術者、技能者に、女性や外国人もいたり、分野や年齢、性別も多様で、いろいろな人がいて、生きがいを持って働いています。それらを紹介したり、業界の一人一人が「造園」は素晴らしいと言えるようにすることが大切です。

小立 中国総支部内では20～30代の経営者も多く、県支部ごとの地域リーダーが決まっています。こうした体制を取ることで、「次は君たちの番だよ」という自覚を促すことにもなります。今は、SNSを通じて会議などの写真を送れますので、常に情報を共有しておけば、その時は参加できない人も情報を得ることはできますし、次も参加しやすいのではないかと思います。なかには、SNSが苦手な人もいますから、いろいろな方法を活用して情報共有したいところです。

また、若い経営者には、現場技術は大丈夫だけど、経営や営業のことを勉強したいという声も聞きます。同じ地域の同業者に話にくいことも、違う地域の人

| | | | | | | |
|--|----|----|------|-----|----|-----------------|
| 総支部長 | 監事 | 理事 | 専務理事 | 副会長 | 会長 | 一般社団法人日本造園建設業協会 |
| 沖九四中近中北 | | | | | | |
| 縄州国国畿部陸 | | | | | | |
| 森執森正井中久加米嘉渡矢内米山諸森森藤西成中中多鈴執古久久北嘉金加小大宇伊井有山正卯伊藤田木鬼和 | | | | | | |
| 根行森本内嶋郷勢内屋邊野山内田井根卷岸家島嶋々々木義英利 | | | | | | |
| 清英和慎充吉幸幸剛吉忠道清慎芳祥和中多鈴執古久久北嘉金加小大宇伊井有山正卯伊藤田木鬼和 | | | | | | |
| 昭利茂大優敏治晴榮浩進吉敏榮雄雄昭茂司雄岳之敏司人 | | | | | | |

2020年新春座談会

地域リーダーズ これまでの10年、これからの10年

様で、とてもお洒落に見えたのが印象に残っています。技術力は当然のこと、見た目も大事なんですね(笑)。

話は変わりますが、10月に開催された北海道の勉強会では、講師の真鍋庭園の真鍋社長さんから「北海道ガーデン街道」のお話がありました。個性のある7つのガーデンが連携をとってアピールすることで大きな宣伝となり、自然に人が集まってくる。ネットワークが大切で、どこが一番ではなく、他のガーデンを褒め合う心掛けが、そこにも行ってみようという気を来訪者に起こさせ、相乗効果が生まれる。個々は小さくても、まとまって業界をアピールしていけば、この造園業界も発展していくと思いました。

松戸 北海道では、歴代の総リーダーからのお話もありました。とても好評で、聞いて良かったと、メールや手紙も届いています。こうした内側の勉強とともに外側へのアピールは大事ですね。

私たちの仕事の多くは業務委託で、頼

まれた仕事を一生懸命にやる、どちらかというと裏方で、外側の方々の目につきにくい仕事かもしれません。

昨年は、地元の千葉県が台風災害に見舞われ、造園の皆さんは、事前に緊急対応の準備をし、災害対応を行うなど、大事なことをきっちりやっています。それを言わないことが美德の時代もあったかもしれませんが、それでは埋もれてしまいます。逆に、存在を知ってもらい、もっと造園を利用してもらえばいいのです。

また、今回の災害対応では、地域リーダーズのつながりがあったからこそ対応できた部分があります。昨年新春座談会は「防災」がテーマで、広島の高雨対応の話も正本さんがしています。私は災害で発生した大量の一般廃棄物についての対応をお聞きし、役立ちました。

広島でも千葉でもどこでも、災害に備え、発生したら自分より地域の対応をしている、そんな業界です。もっと造園は凄いと自分たちで発言しないと。

るようになれば、いろいろな意見がいただけ活動の幅も広がると思います。

松戸 勉強会などには女性の参加も増えているので、そういう方向になっていくと思います。

野上 富山県で鋳物をつくっている会社の社長が、工場見学に来た母親が子供に「勉強しないとこんなところで働くようになるよ」と言っているのを聞いて、「これじゃうちの会社どころか、業界もなくなる」と危機感を覚え、鋳物職人の地位を取り戻すと奮起した結果、魅力的な製品を生み出し、現在では工場見学に年間12万人が訪れ、銀座に直営店を出すまでに急成長しました。

鋳造は暑くて危険だし、大変な仕事です。でも、見学した子どもたちは、「将来、ここで働きたい」と口々に言うそうです。造園も機械化や合理化ができる場所はすべきですが、外仕事が多く、手間が省けず、きつかったり、辛かったりすることはなくならないと思います。しかし、それを乗り越える想いや、やり甲斐があるから、仕事が続けられたり、もっと頑張ろうと思えるのではないのでしょうか。

清水 会員の方でも、小学校の総合学習や環境教育で、子どもたちに環境や自然、造園の話がされている方が多くいますし、インターンシップも各社いろいろ



野上 一志氏

なカタチで実施されています。

松戸 当社でもインターンシップを受け入れています。支部や県造協、組合単位で実施しているところも多くあります。学生さんは、造園の仕事を真剣に考えている人が半分、単位が欲しい人半分といったところですね。

うちでは、造園の魅力が伝わることをインターンシップでもらうようにして、造園業界のPRになることを意識してやっています。とにかく、造園の魅力が伝われば、造園のファンが増えます。

実際、違う地域の造園企業に就職したのを聞くと、残念に思いますが、役割は果たせたと思っています。

造園業の素晴らしさを対外的にPR



田川 弘氏

田川 私もそう思います。凄いい、楽しい。まず経営者自身が本気でこの仕事、うちのやっていることは素晴らしく夢があり、みんなで幸せになりましょう、としないと、社員の人たちは、もっと大変なので嫌になっちゃう、続きません。

私は、そういう理想論とか夢を語るのは、嫌いで言いたくない方でした。でも、大変だというより、楽しい、すごい、と言っている方が皆気持ちがいい。

いきなりは無理ですが、徐々にそういう会社、業界にして、昔ながらの造園屋さんではなく、変わっていかねばならない部分もあるので、地域リーダーズがその先鞭になればいいと思います。

岩間 それぞれの地域で内容は、多少違っていたりしますが、人手不足などの対応は、共通の課題なので、できることをどんどんやった方がいい。

名古屋地区はトヨタさんやその下請けなど製造業での採用が多く、年間120~130日の休みが多くなっています。

しかし、造園はなかなか時間的な合理

化は難しく、現場によっては、しばらく休みが取れなくなることもあり、違う魅力を出さないと採用は困難です。

大きな建設会社でも、まったく応募が来ないところもあり、造園は建設業の中ではイメージは良い方ですが、こちら側の対応を変えていく必要があります。

私は女性の採用について、造園の現場は厳しいだろうとずっと思い、設計や積算、指定管理もしているの、そこでの活躍を期待して、女性を採用していました。しかし、現場をやりたいという女性もいます。来年度6名を採用しますが、そのうちの一人は工務部です。続けられる環境づくりを改めて考えています。

これに関連し、築50年の社屋にいろいろ問題も出てきており、そろそろ限界だと立て直しを計画中です。東北で古積さんのきれいな社屋を見せていただきました。ここで働きたいと思ってもらうことも大事です。そんなことも含めて、将来への投資として、準備をしています。

小立 私も求人票を提出するときに、最近は何年の休日は120日くらいが必要ですねと言われて、それは無理だ...と思いました。会社の決め手は、給与と休日メインの時代になりつつありますから、造園の仕事がしたい、この会社に入りたい、という気持ちが強く無ければ定着も難しい気がします。造園業の素晴らしさを対外的にPRしていく取り組みが必要ですね。

野上 もう皆さんが言われていますが、社会や地域に必要とされない業界は廃れるし、会社は存続できません。

造園の魅力は、僕らみたいにどっぷりつかっている人より、異業種が早くから注目し、外国の人たちが、意外な魅力を発見してくれます。それをうまく発信していく、やり方があるのではないのでしょうか。

また、女性が活躍していない業界は発展しないといいますが、そういった部分で女性部会にこれからも活躍していただきたいです。日造協全体でみると女性はまだまだ少ないような気がします。

清水 これまでの地域リーダーズに女性はいませんし、総支部長や支部長にも女性はいないですね。女性だけの特別な部会だけでなく、女性が委員会に普通に

さらなる造園業、造園の発展へ

野上 造園の領域は大変広く魅力的であることをもっと発信したいですね。

サッカースタジアムの芝を管理するグリーンキーパーは憧れの仕事で、学生にも人気があり皆なりたがるようですが、これも造園の仕事なのに一般にはあまり知られていません。

松戸 グリーンキーパーの話は、『二人三脚』にも出てきます。Jリーグの人気チームの会長が造園会社の社長だったりもします。それは造園そのものの魅力とは違いますが、社長、上司の魅力なども、仕事を続ける上ではとても大切です。

また、幼稚園~小学校低学年の女子に人気の職業として「花屋さん」があります。こうしたところも大切にしたいですね。

古積 地元の高校にお邪魔した際、校舎入口の横断幕に「全国高校生花いけバトル準優勝」とありました。校長先生に話を聞くと5分で競う生け花の競技会でした。高校生の花いけバトルは、日本の花文化をいまの時代にふさわしいかたちで育むために企画されたそうです。北京世界園芸博覧会に視察で行った際にも、プロの花いけのデモンストレーションのステージがありましたが、演出、スタイルともにカッコ良く、こんなことやってみたいと思えるような素晴らしいものでした。

一昨年から、「軽トラガーデン」を宮城県川崎町にある国営みちのく湖畔公園で実施させていただきました。軽トラの荷台の庭を見て、「へえ〜」「すごいね」と驚く人たちが多く、PRはもちろん、出展者も喜んでおりました。

具体的にできること、実際にやるのが大事で、造園に少しでも興味を持ってもらうようなことを積極的に行なってきたいと思っています。

野上 大きな話では、「グリーンインフラ」があり、言葉が一人歩きしているように思います。「SDGs」もそうですが、これらに造園がどう具体的にかかわって

事で、こうした取り組みは日造協だけでなく、造園・環境緑化産業振興会などと連携してやっていけないかと思っています。

松戸 振興会の造園関連6団体との連携は、管内総リーダーの時に造園全体の若手の連携を要望し、日造協から振興会に働きかけて、2017年に実現しました。

清水 どの団体にも関連するテーマで、これまで「地域創成」と「防災」、今年は「女性活躍」をテーマに実施します。

皆さんがお話されていたように、地域リーダーズの取り組みがいろいろところで成果を上げています。一方、まだ課題も多いですが、今後の活動に多くの期待が寄せられています。すべてに伝えるのは大変ですが、造園を知ってもらいきっかけづくりなど、一つ一つ会員各社や地域で取り組んでいることが大切です。グリーンインフラへの対応など、話題は尽きませんが、今後地域リーダーズが10年、20年と続き、その頃皆さんは日造協の役員などに就き、さらに活躍されると思いますので、今日の想いを胸に、地域リーダーズの活動を応援していただき、さらなる造園業、造園の発展につながってほしいと思います。

本日は長時間にわたり、貴重なお話をありがとうございました。



岩間紀久裕氏



清水 謙治